



# 校長室だより

第 5 3 号  
(通算第106号)  
令和5年3月2日(木)  
大崎市立沼部小学校  
校長 吉田 浩之

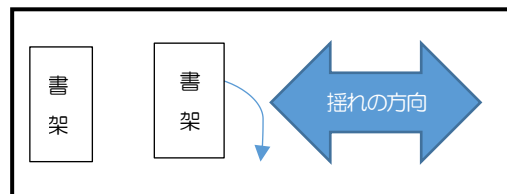
## あの日を忘れない②～宮城県図書館編～

3月になりました。「2月は逃げる月」と言われますが本当にそのとおりだなと思います。卒業の季節です。昨日は県内の多くの高校で卒業式がありました。子供たちの中には、お兄さん、お姉さんが卒業だと教えてくれた子もいます。高校を卒業したお子様がいる保護者の皆さまおめでとうございます。

私は震災当時、宮城県図書館に勤務していました。昨年と同じ記事になりますが、伝えるために改めて掲載します。

今までに経験したことのないような揺れ。立っていることができません。私のそばにいた歩行補助具を使っていたおじいさんが、あの揺れで腰を抜かし、床にへたり込みました。私はとっさにこの人を守らなければと思い、必死にその方の頭を抱えるようにして揺れに耐えていました。正直それくらいしかできませんでした。そのときです。私の前方10数mのところで、エスカレーターのところの吹き抜けにある、3階部分のガラスが落下してきました。飛び散った破片が私の近くまで来ました。とても怖かったです。

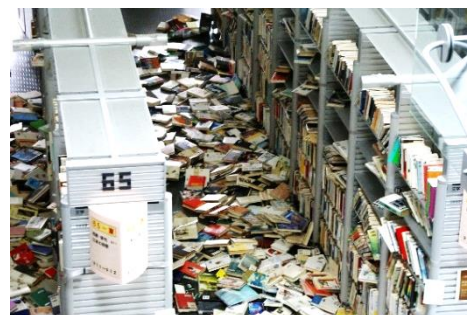
何度も何度も揺れがくる中で、そのおじいさんをなんとか無事に御家族の方に引き渡すことができました。県の図書館は東西方向に200mもある建物です。揺れは東西方向でした。したがって書架にある、およそ



100万冊の本がほぼ落下しました。右上の写真はバックヤードにある執務室ですが、足の踏み場もないほどだったことはお分かりいただけるでしょうか。書架のある3階にいた職員は「本が落下するとき、本が空中で止まっているように見えた。」と言っていました。右下の写真は、4月8日に余震があり、その直後の一般図書フロアの様子です。再開館に向けてある程度書架に本を戻していた矢先の余震で、私も含めて、職員のモチベーションが大分下がってしまったことを思い出します。



図書館には高さ1mにもなる大型の本もあります。そんなものが頭に落ちてきたらと思うとぞっとします。そこで思ったことは、本は地震のときには凶器になりうるということです。当然そのような大型の本も落下しましたが、幸い図書館ではけが人は出ませんでした。



図書館で地震に遭遇したら、まず、書架から離れることです。壁も崩れることがありますから、壁からも離れて広い場所で、かがんで頭を守りましょう。いわゆるダンゴムシのポーズで、揺れが収まるのを待つことが大切です。揺れが収まったら、慌てずに外に避難しましょう。

